



肌悩みに関する
調査レポート2025

最新の消費者意識とトレンド分析

調査概要

本調査は、生活者が抱える肌悩みの実態と、日常のスキンケア行動、美容施術の利用状況、情報収集の傾向を把握することを目的として実施しました。現在気になっている肌悩みやその複数選択、年齢とともに変化する悩み、肌質とケア内容、スキンケア関連の支出、情報の受け取り方、美容施術の経験・意向、スキンケアへの関心度および属性情報を通じて、生活者の肌ケアの全体像を整理しています。

1. 肌悩みの実態の把握

乾燥・シミ・くすみなど、現在もっとも気になっている肌悩みと、複数抱えている悩みの組み合わせを把握。

2. 肌悩みが気になり始めた時期の把握

肌悩みを意識し始めた年齢を確認し、ライフステージごとの悩みの立ち上がりタイミングを整理。

3. 肌質と肌悩みの傾向の把握

乾燥肌・脂性肌・混合肌などの肌質分布を確認し、肌質ごとの気になりやすい悩みの傾向を分析。

4. 日常スキンケア行動の把握

洗顔・化粧水・美容液・乳液・パックなど、日常的に行っているスキンケアの内容とステップ数を可視化。

5. スキンケア関連の費用意識の把握

スキンケアにかける月間支出額および自由に使えるお金の範囲を確認し、価格帯とケア行動の関係性を整理。

6. 美容施術の利用実態と今後の意向の把握

フェイシャルエステや美容皮膚科などの利用経験、直近年以内に行った施術内容、今後取り入れたいケアへの意向を把握。

7. 情報収集と意思決定の把握

YouTube・SNS・Web記事・口コミなど、美容・スキンケア情報の主な収集経路と、もっとも信頼している情報源、スキンケアや美容への関心度の変遷整理。

調査方法

1. **調査手法**

インターネットアンケート調査(利用ツール: [ユニーリサーチ](#))

2. **調査対象**

全国の美容クリニック・エステサロン利用経験者(女性に限る)

3. **調査期間**

2025年11月

4. **回答数**

有効回答230件

エグゼクティブサマリ

- **現在もっとも気になっている肌悩み – シミと乾燥が上位**

最も気になる悩みはシミと乾燥が突出し、年齢を重ねるほど関心が高まる傾向。エイジングサインへの意識が強く、予防と改善の両面が求められる。

- **普段行っているスキンケア – ベーシックケアが定着**

洗顔・化粧水・美容液・乳液など基本的なステップが高い実施率を示す。機能性アイテム（パック・ピーリング）はニーズに応じて追加される構造。

- **スキンケア商品・施術の選択基準 – 価格と効果が軸**

重要視される要素は価格・効果が二大要因で、成分・口コミも選択を左右する。費用対効果と安全性を満たす提案が購買行動の分岐点となる。

- **情報収集源 – YouTube・Instagramが主軸**

動画・SNSを中心に情報接触しており、視覚的で分かりやすい情報が求められる。年齢層に関わらず、インフルエンサーの影響力が強い構造が見られる。

- **もっとも信頼している情報源 – YouTubeが最多**

信頼の軸はYouTubeが中心で、専門家・Instagramが続く。“解説のわかりやすさ”と“発信者の信頼性”が選ばれる理由になっている。

- **スキンケアへの関心度 – 高まっている層が最多**

コロナ後の生活変化や美容医療の普及により、美容への関心が上昇傾向。自己投資意識の高まりが購買行動にも影響する。

- **今後取り入れたいケア – パック・美白・保湿が中心**

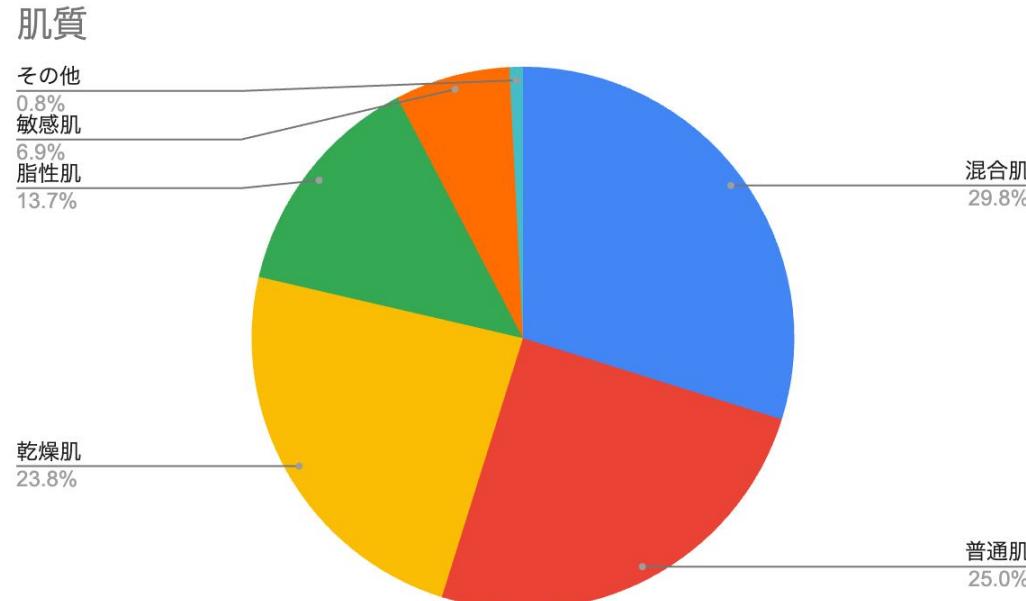
パック・美白・保湿など手軽で効果実感を得やすいケアが人気。日々のルーティンに組み込みやすいアイテムが選ばれやすい。

- **直近1年以内の施術 – エステ・フェイシャル・脱毛が中心**

美容施術では“負担が少なく取り組みやすい領域”が上位に並ぶ。目的別に併用する傾向が見られ、複数ジャンルの提案が有効。

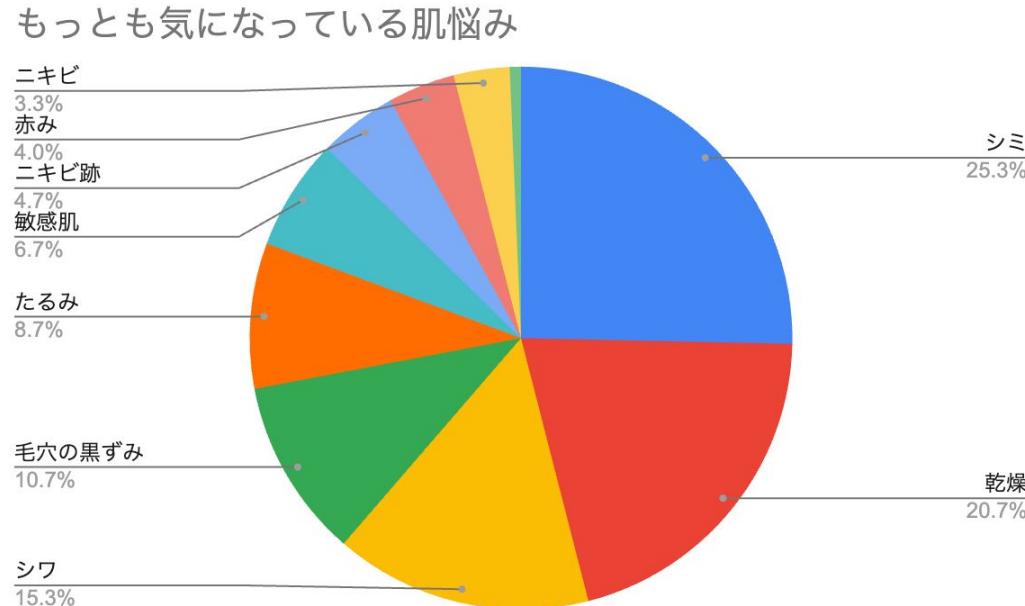
肌質 – 混合肌が最多

- 混合肌が最も多く、普通肌・乾燥肌が続いて主要な構成を占める傾向が見られる。
- 皮脂と乾燥の両悩みが共存しやすく、季節変動の影響を受けやすい層が中心。
- ケア提案では保湿と皮脂コントロールのバランスが鍵となる。



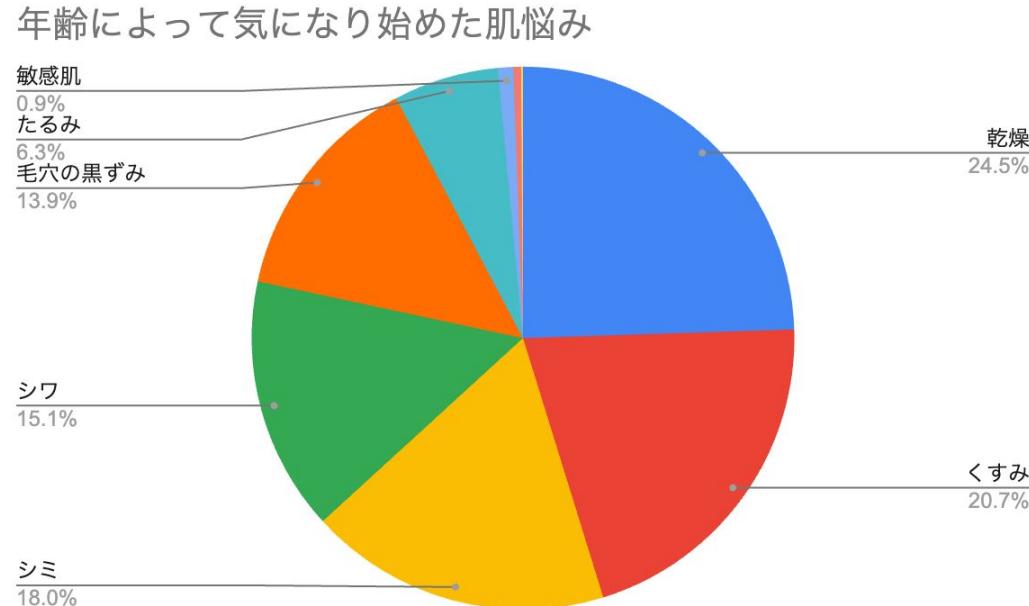
現在もっとも気になっている肌悩み – シミと乾燥が中心

- “シミ”と“乾燥”が最も多く、エイジング初期の悩みが上位を占める。
- 紫外線や生活リズムの影響が大きく、予防と改善の両アプローチが必要。
- 日常に取り入れやすいケアの提案が有効となる。



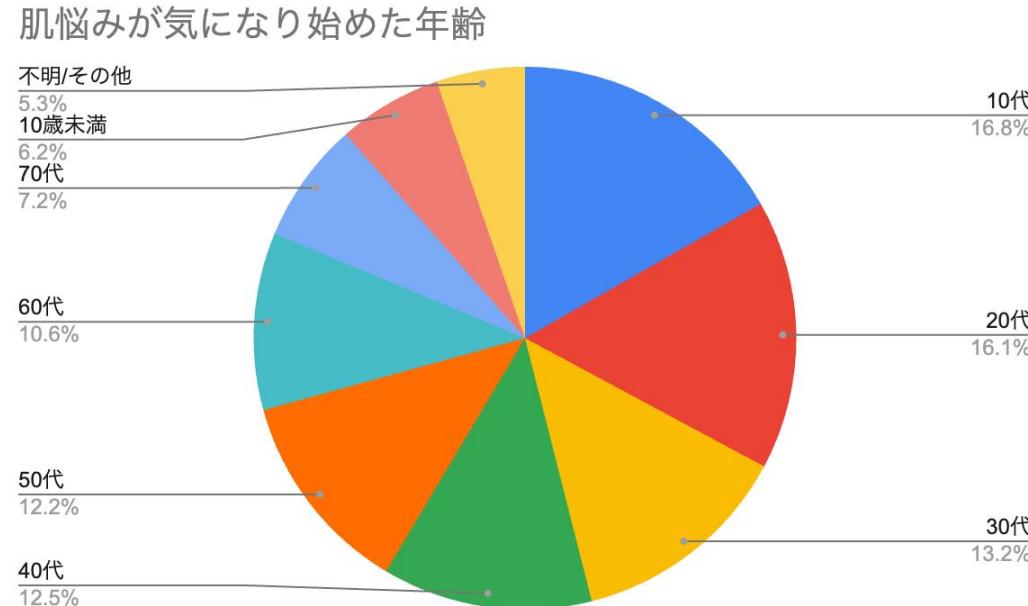
年齢によって特に気になり始めた肌悩み – 乾燥・くすみが先行

- 乾燥が最初に気になり始める悩みとして最も多く、次いでくすみ・シミが続く。
- 年齢によるターンオーバー低下や保湿力の変化が影響していると考えられる。
- 早期ケアと季節要因を踏まえた提案が求められる。



肌悩みが気になり始めた年齢 – 10代からの開始が最多

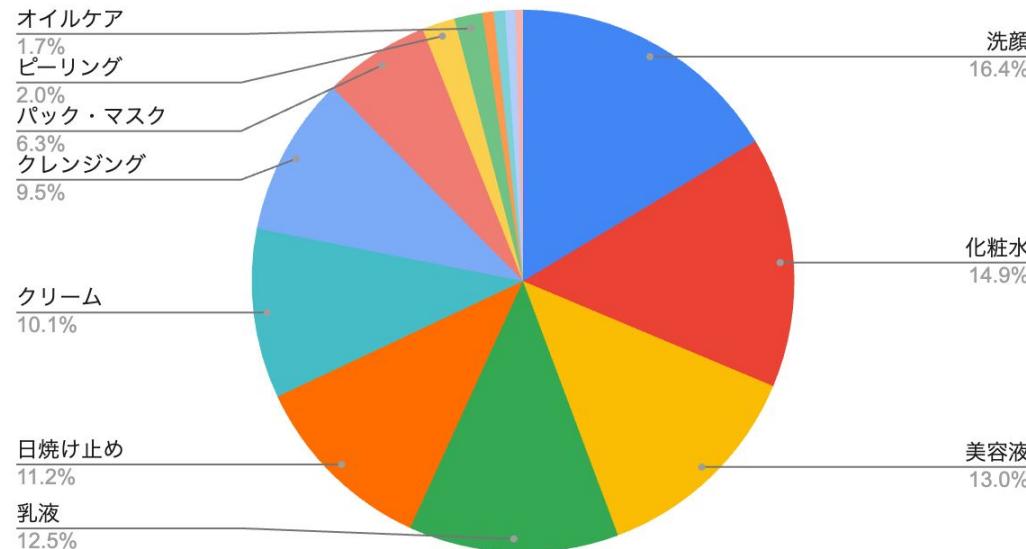
- 悩みが始まる年齢は10代が最も多く、20代を含めて若年層から発生しやすい。
- 皮脂量変動・生活リズム・学校生活などの環境要因が影響する構造。
- 早い段階から正しいケア習慣を伝えるアプローチが鍵となる。



普段行っているスキンケア－ベーシックケアが定着

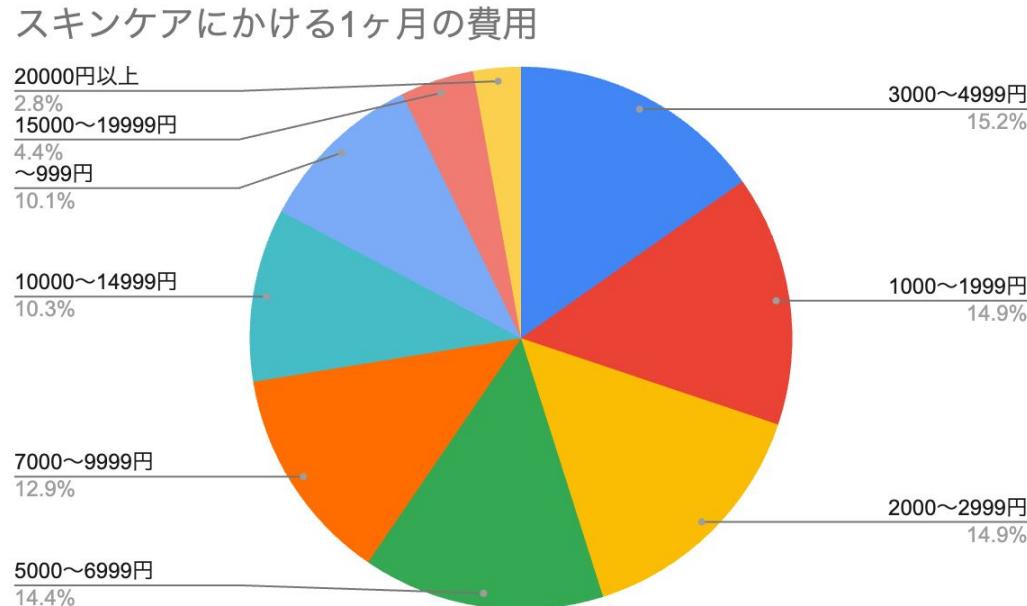
- 洗顔・化粧水・美容液・乳液など基本ケアを中心に、多くの層が複数ステップを実施している。
- パックやピーリングは目的別に追加され、セルフケア志向の広がりが見られる。
- 複数アイテムの組み合わせ提案が受け入れられやすい構造。

普段行っているスキンケア



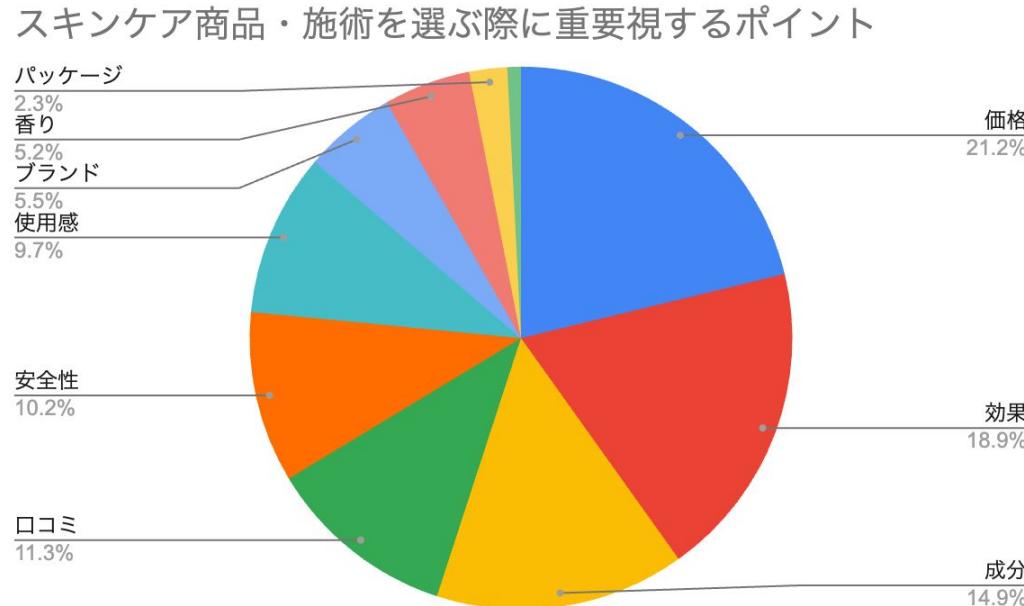
スキンケアにかける1ヶ月の費用 – 3000～4999円に集中

- 支出は3000～9999円に集中し、コスパと効果を重視する層が中心。
- 高価格帯よりも“続けやすい価格帯”にニーズが集まる。
- 効果の見える化と価格の妥当性が選択の分岐点となる。



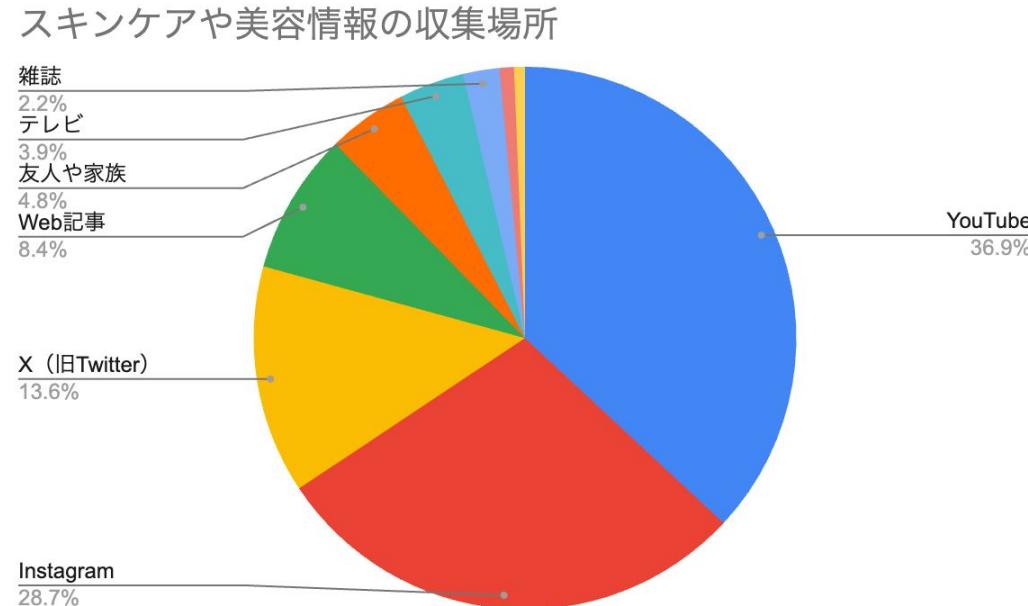
スキンケア商品・施術を選ぶ際に重視するポイント – 価格と効果が二大要素

- 購入時に重視されるのは価格・効果で、成分・口コミが次点。
- 無駄なく自分に合うアイテムを選びたい意識が強い。
- 情報の透明性と実感価値が購買行動を後押しする。



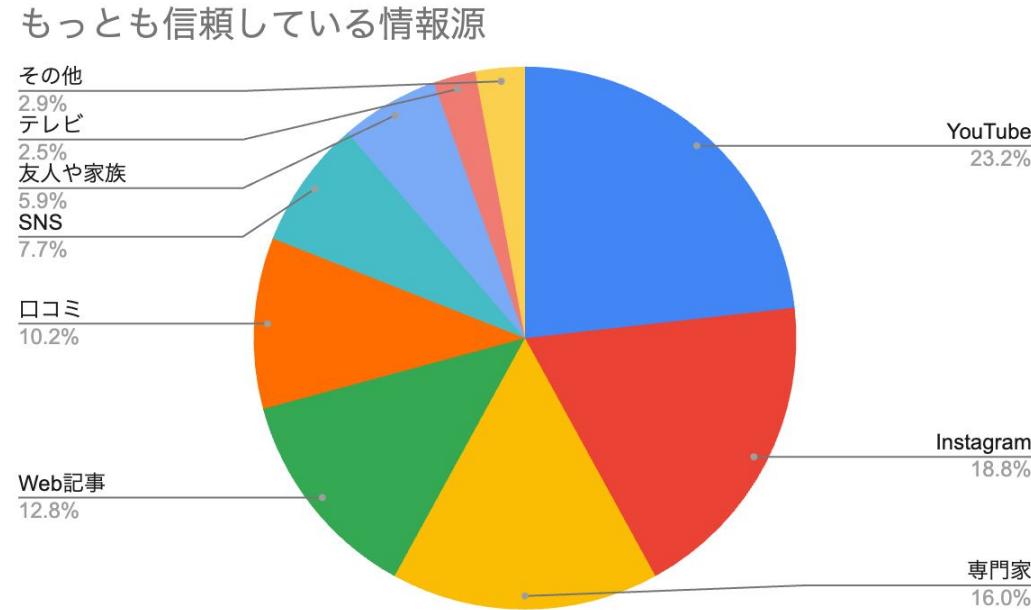
スキンケアや美容情報をどこで収集しているか – YouTube・Instagram中心

- 視覚的で分かりやすい情報が支持され、動画SNSが中心的な役割を果たす。
- インフルエンサーの解説や体験談が判断材料になっている。
- コンテンツ内容と発信者の信頼性が重要となる。



もっとも信頼している情報源 – YouTubeが最上位

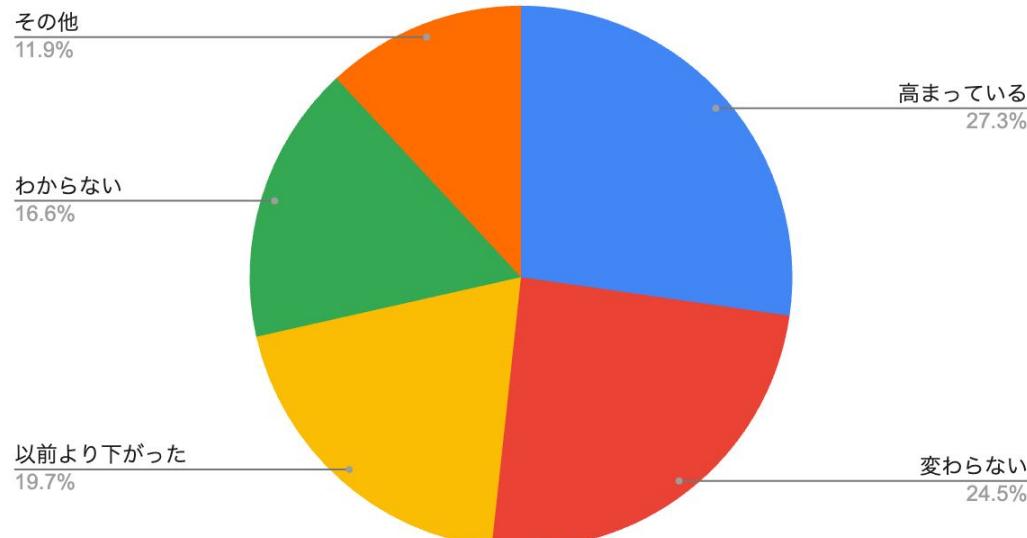
- 信頼度の高い情報源はYouTubeが最多で、次にInstagramと専門家。
- 体系的な解説や比較検証が評価されやすい。
- 発信者の専門性と情報の正確性が選ばれる理由となる。



スキンケアや美容に対しての関心度 – 美容への意識が全体に高まっている

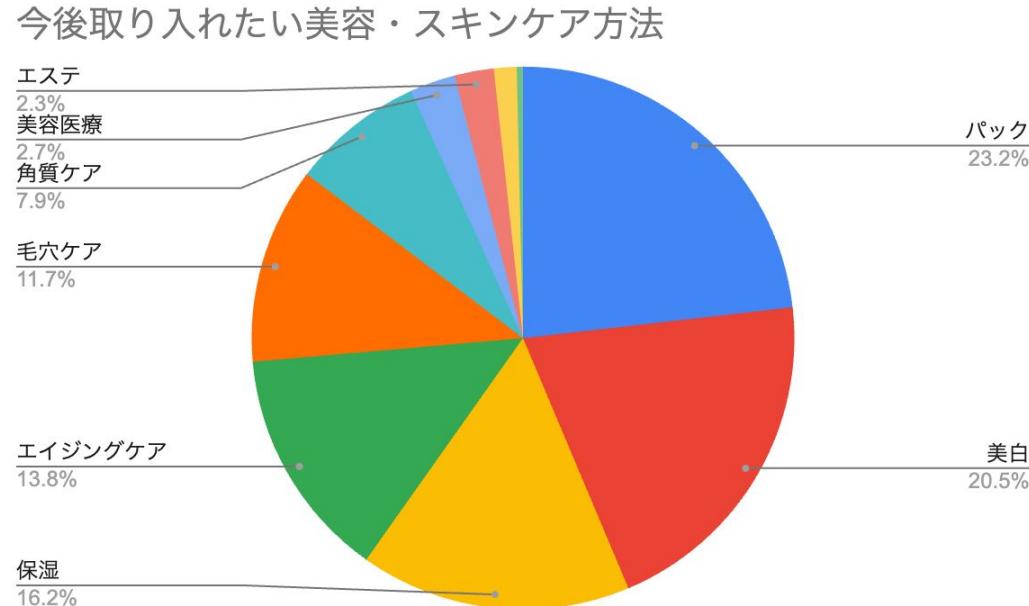
- “関心が高まっている”が最多で、自己投資・見た目への意識向上が背景にある。
- 美容医療の普及やSNSでの情報アクセスが後押ししている構造。
- 興味の高まりは購入行動にも影響しやすい。

スキンケアや美容に対しての関心度



今後取り入れたい美容・スキンケア方法 – パック・美白・保湿が上位

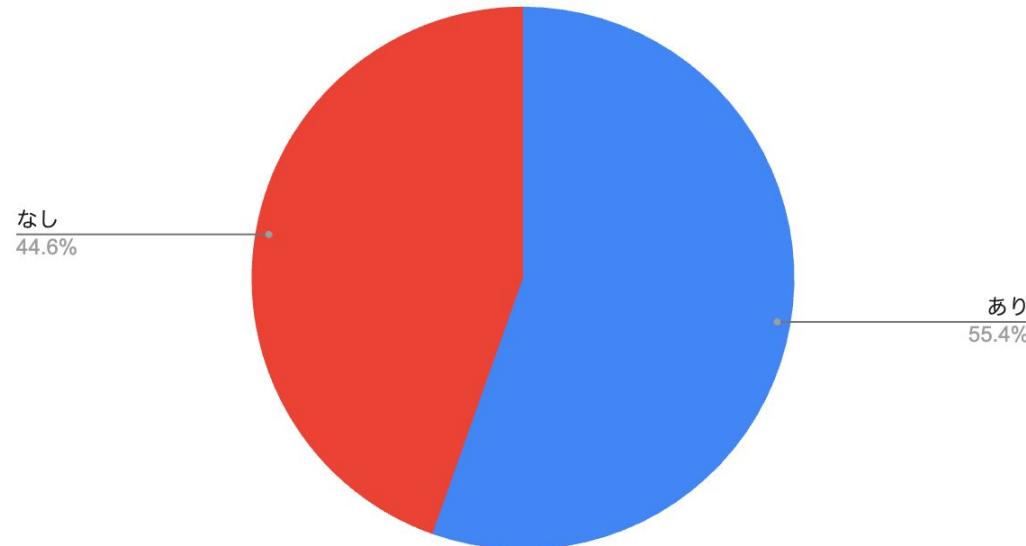
- パック・美白・保湿が最も人気で、日常に取り入れやすいケアが好まれている。
- 効果実感のしやすさと習慣化の容易さが選ばれている要因。
- 気軽に試せるアイテムの訴求が効果的。



フェイシャルエステの利用経験 – 経験者は一定数

- エステや医療美容の利用経験は一定数あり、ライト層にも関心が広がっている。
- リピートに向けては費用感・施術の安心感が重要。
- ライト層向けの導入施術の提案が有効。

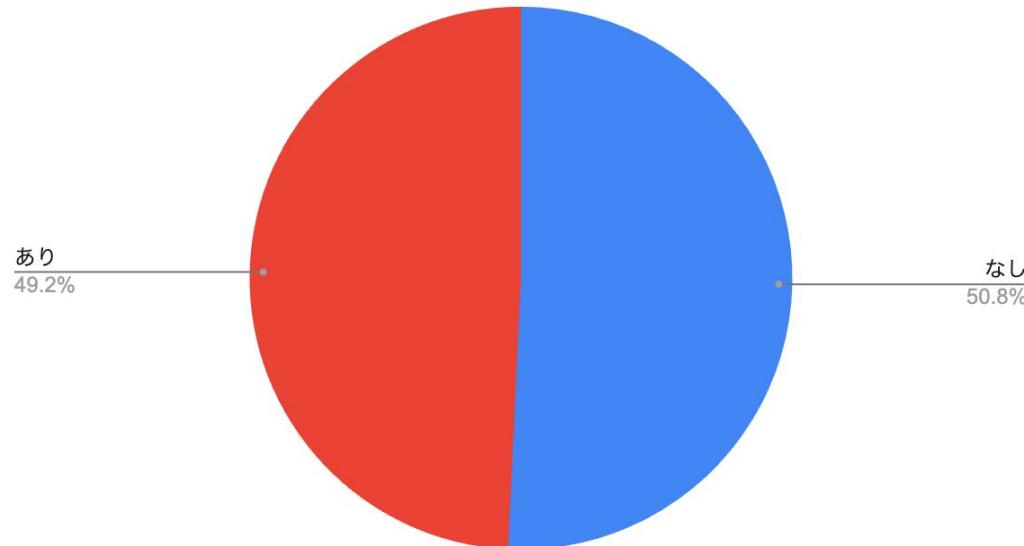
フェイシャルエステの利用経験



医療美容(美容皮膚科)の利用経験 – 経験者が一定数存在し、関心の広がりが見られる

- 医療美容の利用経験は“あり”が一定数存在し、スキンケアの延長として取り入れる生活者が増えている。
- 効果への期待や情報アクセスの容易さが背景にあり、ライト層にも関心が広がる傾向が見られる。
- 費用感・施術内容の理解が購買行動の分岐点となり、安心感のある情報提供が鍵となる。

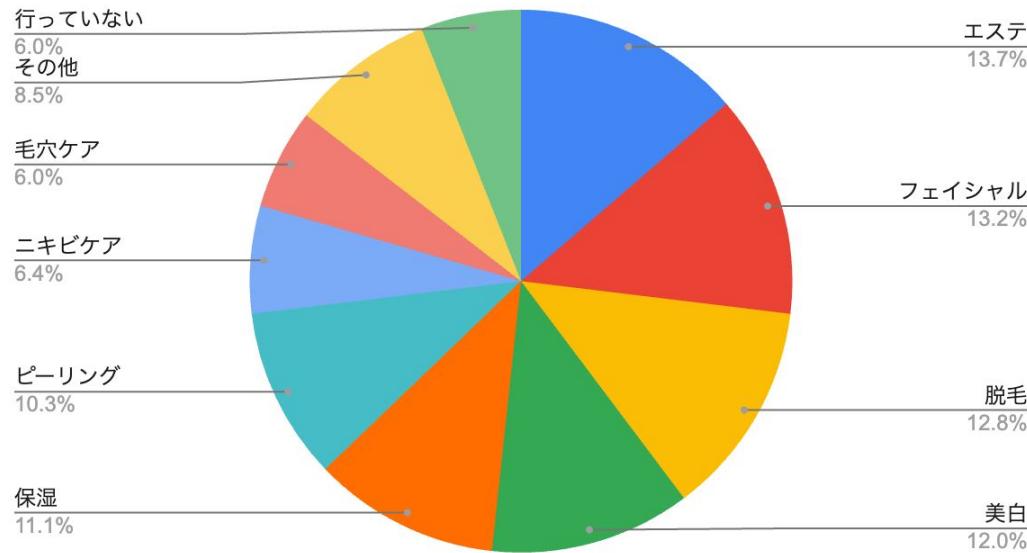
医療美容（美容皮膚科）の利用経験



直近1年以内に行った施術 – エステ・フェイシャル・脱毛が中心

- 1年以内に実施された施術は、手軽に始めやすい領域が上位。
- 目的別に複数施術を併用する傾向が見られる。
- 悩み別のセット提案が受け入れられやすい。

直近1年以内に行った施術



まとめ

本調査では、生活者が抱える肌悩みとして**乾燥・シミ・くすみが主要な関心領域**となっており、複数の悩みを同時に抱えている人が多いことが明らかになりました。最も気になる肌悩みはシミと乾燥が中心で、年齢を重ねるにつれて、シミ・くすみ・小じわなどエイジングに関連する悩みの割合が高まる構造が確認されました。

肌悩みを意識し始める時期は**10代・20代が中心**で、比較的早い段階から悩みが立ち上がる傾向が見られました。肌質については混合肌が最多で、続いて普通肌・乾燥肌が多く、自身の肌質に合わせて複数の悩みを併せ持つ層も一定数存在しています。これらの結果から、若年層から複数悩みを長期的にケアする必要性が示されています。

日常のスキンケア行動では、洗顔・化粧水・美容液・乳液などの**基本的なベースケア**が広く定着しており、目的に応じてパックや角質ケア、美白ケアなどの追加アイテムを組み合わせる傾向が確認されました。スキンケアにかける月間費用は000~4,999円が最多で、過度に高額ではない範囲で継続的なケアを行う層が多いことが特徴です。

美容施術については、フェイシャルエステや医療美容の**利用経験者が一定数存在**し、直近1年以内にも複数の施術が行われていることが分かりました。一方で「施術への不安」「価格負担」などの心理的障壁も回答として存在しており、情報の信頼性や導入のしやすさが選択の基準となることが示唆されました。肌悩みは年代とスキンケア行動に応じて多様化し、日常ケアと美容施術を組み合わせながら、自分に合う方法を模索する生活者像が浮かび上りました。

本データのご利用にあたっての注意事項

1. 本資料に掲載されたデータや内容は、株式会社iLiShが実施した独自調査に基づくものです。
2. 本調査結果は統計的な傾向を示すものであり、すべての利用者の行動や意識を代表するものではありません。
3. 本資料の内容を引用・転載する場合は、必ず出典として「株式会社iLiSh『肌悩みに関する調査レポート(2025)』」を明記してください。
4. 本資料に記載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、
利用者が本情報を用いて行う判断・行動については当社は責任を負いかねます。
5. 本資料の一部または全部を、営利目的で二次利用することはご遠慮ください。